

京都策
児島定七

025321-000-9

特47-431

京都策

児島 定七/著

M23

ADC-2755



特
4

72607

135-
1514

京都集

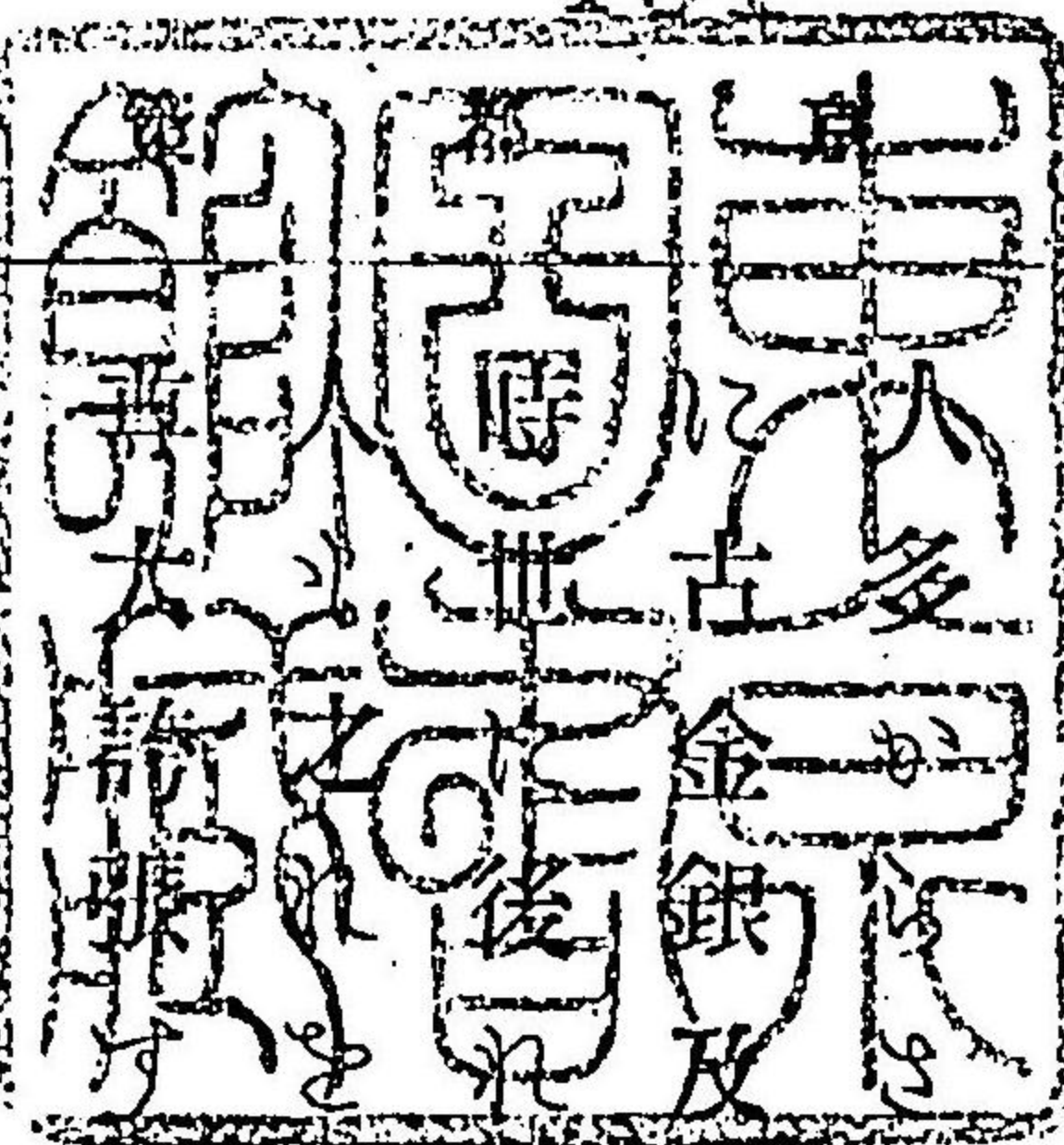


折原生田

特47

431

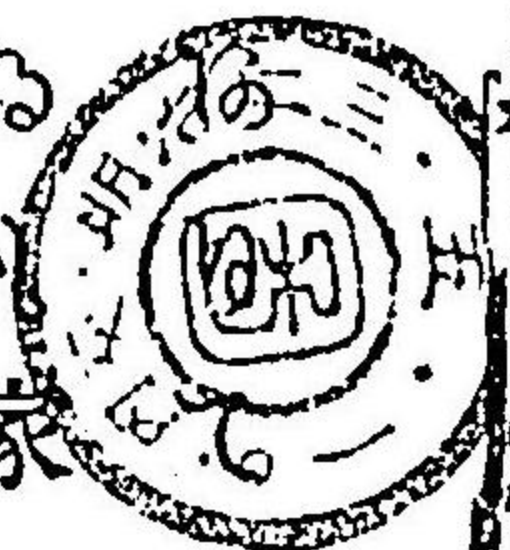
W23384



京都策上卷叙

抑も京都は勤儉貯蓄するの固有の美風
 商業繁盛ならざるも店頭一物を置らざるも家

るも内部は巨多の通貨と公債證書
 高價の器物を有するの素封家多く
 たれとも金力に後れを取らざ我も
 許し表面的卑屈柔順なるも裏面的
 るの風ありし然るに近來世の風潮
 と共に外部の進歩を爲すと同時に内部の金力
 とを飛散せり再言すれば小部の開發を爲し否な
 開發の方針を誤りて大部の實力を失ひたるも



の、如し我輩竊かに之れを憂ふ所にして之れが源因たる所以のものを常に談柄とせり我輩毎年歳^首旅行を爲すと例とせり本年は之れに換るに一二日の閑を竊み京都策の稿を起す既に數十葉に及びり其後商業の餘暇を以て之を補充し終に京都策上巻一篇と爲す一日盟友鷗外子來り京都策艸稿を熟讀して曰く本書は京都策に非ずして京都談否な京都歎あり文中冷評的の字句を見る恐くは紳士有志家の嘆怒に觸れん何んぞ嚴格誠實なる文を以て京都策とせざるやと予微笑し之に答ふるに生は寺

京 都 策

京 都 策

子屋教育の卒業子弟にして無識淺學の一商人なり文辭を飾るの技を有せど唯た耳朶に觸れ眼光に映せし事を書集めし迄なり子は予と斷金の友なり何んぞ子の平常を知らざるや然れとも子が注意を甘受して後篇必だ文辭を慎み京都策たるの主意に合ざるも之れに適するの論文を以てすべしと鷗外子唯々として去る

明治二十三年二月於京都富柳閑居

兒島定七識す

目 次
總 論

第 一 篇

第 一 章

第 二 章

第 一 節

第 二 節

第 三 節

第 四 節

第 一 章

第 二 節

第 三 節

第 三 節

名 勝 保 存

旅 客 吸 集

鐵 道 布 設

旅 舍 之 改 良

道 路

商 人 の 心 得

工 藝 美 術

美 術 家 に 爵 位 を 與 ふ 事

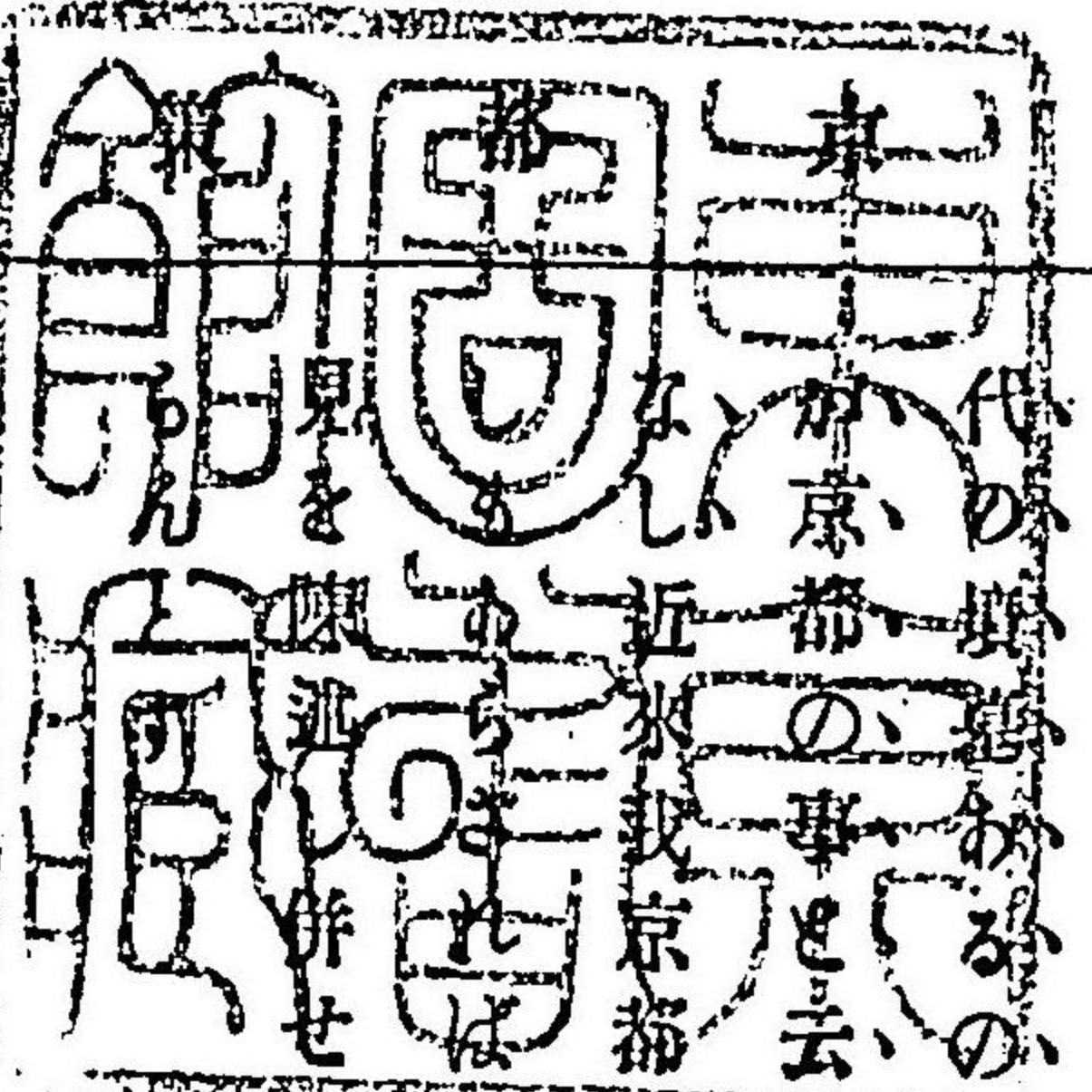
繪 畫 の 獎 勵

美 術 會

京 都 策

柳 條 生 稿

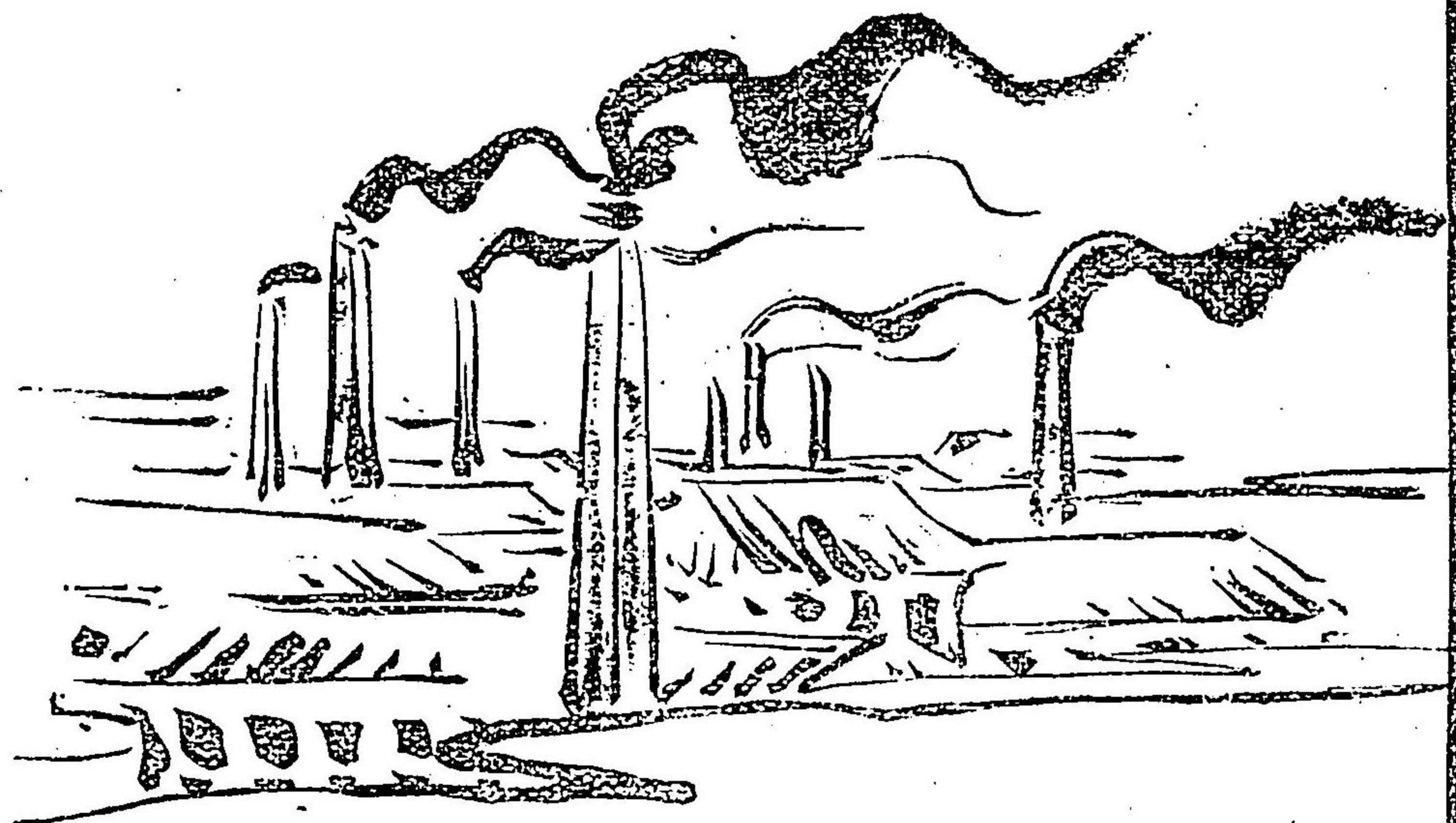
柳條生は薄資の一商人なりと雖も我が京都は是れ父祖より居住し累代の興衰あるの地なれば他人の此地を視ると同一ならずして苟も我が京都の事と云へば一事一物として生が感情を惹き起さしめざるは近來我々京都に實狀を觀察するに大に願慮憂歎すべき情況なきに愛に其實際の現狀を寫して以て聊々多年抱持せる意見を陳述し併せて將來に於ける我が京都維持の方策を論究する所あり



總 論

抑も我が京都府下農工商の有様は付て觀察を下すに農業に於ける著大の物産なく唯製茶の産出に留まるのみ去り乍ら常に其收支を相

償ふ能はず又々他に養蠶の業ありと雖も是とて未だ盛大の域に進ま
 ず殊に昨年の水害は年末に至たり非常の不景氣を惹き起したりと雖
 も此れが救護の策を講すべき有志者の更らんと心を此の点に留むるあ
 く徒らよ政談に奔走し農民の作業の依然として寧ろ退歩の色あるに
 拘とらず生計の度ハ益々高くなり加之のみならず無益の費用を負担
 することの昔日の比にあらず或は政事を談じて家計を顧みず○工業
 と府下の物産なる西陣織物ありと雖も美術品れ一部分れみ僅かに存
 するに止り余は他府縣に蠶食せられ職工の車夫と變じて十字街頭に
 彷徨し其他特有物産も二三の外は既に他の物産と變化せしもの少
 からず諸會社れ煙突の聯立して追々其事業を創むるが如しと雖も職
 員深切ならざる爲る株券と日を追て下落し既に解散の不幸を見るの
 會社顯れ未だ前途充分の見込確立せしもの少あく徒らに外見の其の
 盛況を呈するのみ畫工及び精功の諸職工と我が物産の源泉なれども



會社濫立の
 結果は平素の
 胎芽を
 枯らす

策 都 京

是等は追々東京に轉住し去りて終に下工拙手のみ我に存し又商業に到りての有志の商業家の時勢は變遷に着目せずして偷安に流れ茶湯謠曲に消光して或は低利の公債證券に安んずるか又は株券賣買株式投機を事とするにありて真正なる實業的商業は進歩を計るゝ如き者は寥々晨星の如く偶々商工業の企圖に熱心なる人なきに非ざれば共目下の風潮政事を談ずる輩の外は國家の爲に盡せしものに非ざる如くに妄信し隨て勸業家其人に重きを置かざる爲め熱心の企圖を達せしむる能はず依て金融發達の機關なる銀行の當座貸借は生産的實業の途に運轉さるゝこと甚だ少なくして反て株券賣買投機的運動を助くるの機關あるものゝ如く寧ろ終に之が大半を占むるに到れり

方今は朝に京都を出て夕に東京に達するの便捷ある時期にして之に加ふるに關西鐵道は方に伊勢に達し奈良鐵道も已に敷設の許可を得北陸鐵道も亦假免狀を得たり而して舞鶴鐵道も將に再願せんとせ

策 都 京

り又た京都工業の發達に尤も望みある疏水工事の落成は眼前に在り琵琶湖の水は京都に注入し水力の効用は實地に目撃するも遠きに非らず電燈會社の電柱の市内に林立して街衢の不夜城となり株式米商投機の賣買者の益々其數多きを加へ仲買の軒の日を追ふて増加し議會は雄辨家の演習會の如くにして政事思想の傍聽人常に山をなし諸政社の設立は日に増設して新聞の紙面の連日其記事あらざるなし而して町村の自治は特別市制施行の爲めに原因せるか兎角官民讓り合の姿にて事務常に澁滯の憾なきに非ず理事者の放任も過ぎて有志者紳士輩の自己が虚名と空利に汲々として府下一般に公益となるべき殖産興業の如きに至ては實に冷淡なるのみならず實業的正直の商人の交際場裡に立ちて肩身狭く却て不生産的の名利に走る輩常に意氣揚々たる色ある如き有様あり以上の如き有様を以て移つらば今後京都は如何なる結果を生ぜべきや是れ實に生輩の憂慮し措かざる所に

策 都 京

して職者の考案を煩さんとする所の者亦實にこゝにあるなり
 人或は云はん斯事たる京都府市に限らず即ち我國變遷は反動にして
 開明進歩の代償として受取るべき全國一般の通狀なり然れども今や
 立憲政体の基礎既に定まり本年の國會を開き町村の自治制となり府
 縣郡制も亦將に發布せられんとする時期にして所謂我國第二の維新
 とも云へるべき時季なれを此秋に際し我が府下の人士はよろしく妄
 説を排し進んで利地は精神を鞏固に、桓武遷都以來明治東遷迄の大
 首都たりし實を失はざらん事は府下有志者と共に勉むべく亦尽すべ
 きの義務なるの厚く信じて疑はざる所なり
 榎村知事は京都維持を勸業に基きて諸般の模範工場を設け俊秀の書
 生を海外に留學せしめ以て之れが勸業政畧を爲し北垣知事と疏水工
 事を起して京都維持の長策とせられ而して留學生の歸朝は宛も會社
 設立の實を結び疏水落成は工業誘導の媒となり京都維持策としては

策 都 京

此地に知事たる人の其方策を回らされざるのなし然れども府縣知事
 は終身其地の監督者たるべきものに非ず依て我が京都維持の方針を
 定むること自治の本義に基き土着有志家及紳士の最も願慮すべき緊要
 の事務なるべきなり然らざれば若し府知事の更迭に遭ひ其の新任者
 は前の方針を變じ此に乗じて或は皮想有志家が新任官の意を迎へ氣
 に投せんとして大よ人民の迷惑を蒙むる事實は往々他府縣に於て聞
 見せる所なり前年京坂新聞に北垣當知事の轉任の記事ありしを見て
 當時生は京坂新聞に投書して疏水工事落成を告げ其結果の大半を見
 る迄は如何なる場合あるも轉任又と罷官の變動ありては京都府民の
 迷惑を感ずる大なるべきを痛論なしたりき余は北垣其人に戀々の情
 あるに非ずと雖も事半ばあして轉任ありては事業其物の爲めに府民
 の不利益その幾許なるを知らざれば今後余輩の敢て大政府に望むべ
 きは政府の都合にて知事に幾回も更代あるも土地は維持策と宜しく

其土地有志者の責任からいゆか、而して其方針に設けしめん事を望む。聞く特別市制は片輪車の如くにして前述の如き讓合の弊を生ずべき事は尤の事なれ共いかに片輪車なるにもせよ何時迄も片輪にてと置けし早晚完全なる兩輪を具ふる市制となさざるべからず回顧するも昨年市會議員選挙の際は非常の競争をなしたれども其市會開けて後は議員に欠席ある事多くして常に開會する能はざりし如き事あるの如何にも不都合にて前後其人の行爲と相反する事なき手若しかる有様にて成り行らば何日までも片輪車の弊に満足し居らねばならぬ事と云はざるを得ず口に片輪車を唱へて而して身既に片輪よ安んせんとする如きは是れ識者の採らざる所にして一府一市町の代議士たるべきものゝ深く反省すべき事に非ずや

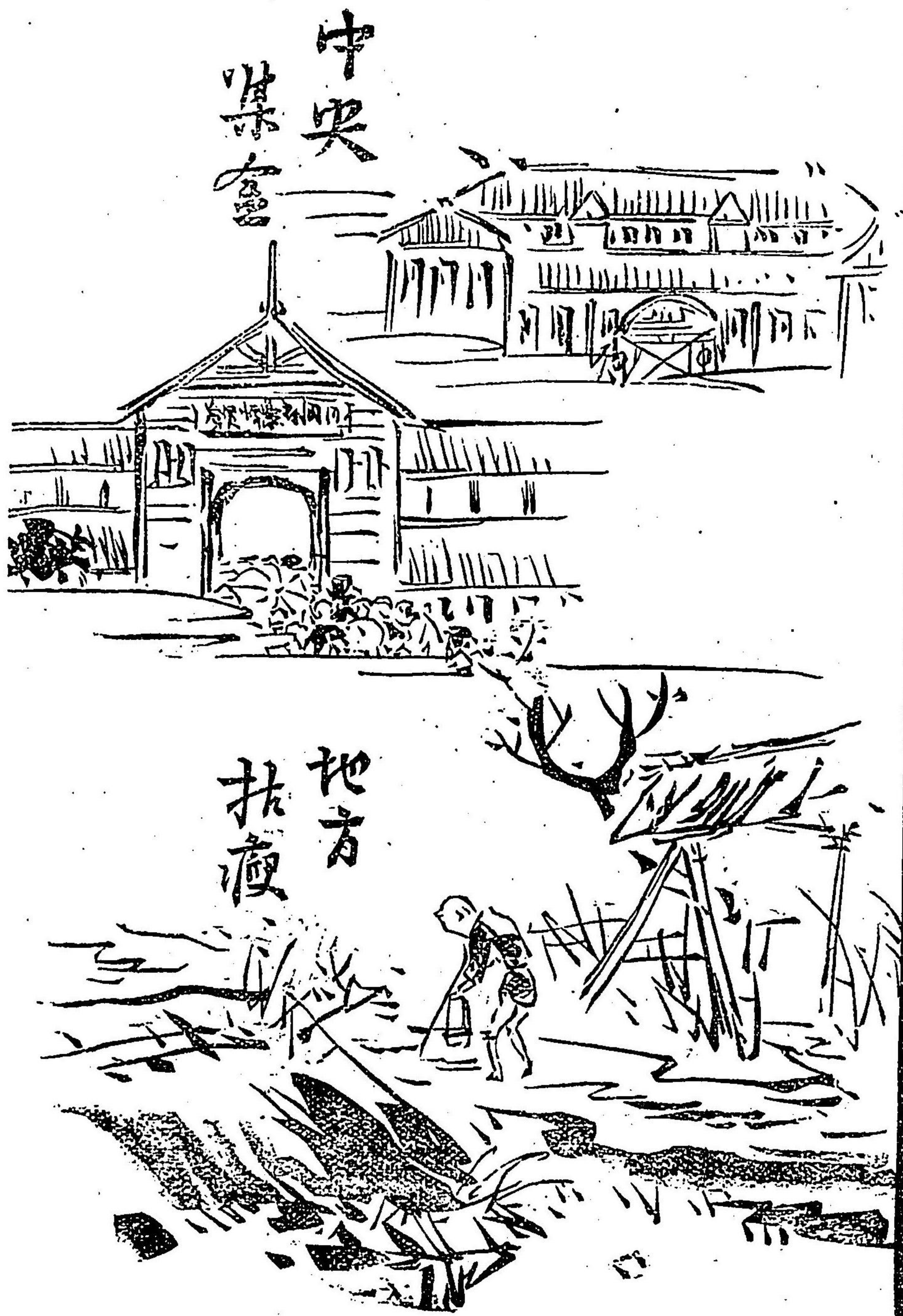
又特別市制廢止の請願を爲せし事件に關して或人の之を一時の虛名買ひの爲めのみに過ぎずとの妄評を下せし事ありしとかゝる語を爲すの徒あるの誠に歎はしき事なりと雖も余輩は之を無産盲眼の發語に歸して敢て意に介せざるなり

又市の有志者老成家等より一顧を煩さん事こそあり是等の人々は長らく府市全体の公共事業に關涉して日外夫等の人々の言に今哉我邦日を追ふて外人と商業の對戰競争をすべからざるれば場合區々たる一小政事に關係する事快とせざる所なりと我等及他の志士も其言の潔よきを感服せしにもかゝらば其言語の未だ耳朶を失せざるは是等の人々は其後矢張名譽職又は府市の一小政事に關涉して得色たるが如きハ我輩實業獎勵者の眼光より見るときは面白らざるの現象にて先づ老成家其人より生産的獎勵の手本を出さなければイツカ實業發達の期を見るの秋なしとす又實業兼務の老成家が其本業又は他の事故にせわしくして常に名譽職の事に欠席多くあるの之を兼務するの實力なきは例証なり歐洲自治團體の有様を聞くに榮家老成家多しと然

京 都 策

れども之れは既に已に自身の本業に他人に委託し置き安心なるの後
ちに地方の事に力を盡すものにて今我國自治体の有様は先づ其職員
は地方の名譽職に居りて後ち實業界を游泳するものゝ如し之れを評
するに老人の眞似をして後ち壯年の行ひを爲すものゝ如し大に歐洲
各國の自治体と其趣きを異にも依て貴き自治の法律は徒法に近し
既に本年二月府會議員半數改撰の際に濱岡西村兩氏の如き名望ある
老成家が府會議員撰擧に洩れたるも我輩實業獎勵者の所見にて其
等の名望家が一小政事界を脱したるは實業界に光彩を加へたるの感
覺を生じて二氏の爲めに今后實業界に力を盡さるゝ事の我輩斷つて
疑ざる所也

右等の述説は是れ單一に我が京都の近情を穿ち出せし實寫なるか併
し今日に於ける京都全体の景況の四五年以前より一般に回復せし
姿にして諸の統計上にも其實績顯れたりと謂ふの人ありと雖もこれ



只だ皮相外部の事にして統計の實績は其以前取調れ順序整頓せざりしものにして決して實況の回復したるも非ず隆盛を來せし様に見ゆるは從來京都財産家素封家の金庫中に秘し貯へられしもの漸次株券と變り又は株式賣買の損毛となり流出飛散したるものにすぎず京都は素封家の多き有名の地なりしも今や已に金庫は正貨飛散したるの結果にして舊富豪家金穴家の金は何となく他へ流出回轉せし有様なるのみ金穴家が金員の四方に流出回轉するの經濟上好しき事實なるものゝ如しと雖も他日外人の雜居となり碧眼多資の士と商業の競争を試み確實なる放銀は道開け大に資本を要すべき時期に際し我國資本家のスハ鎌倉てふ場合金庫の株券を現時通貨と換るべきものなく漸次其價格は失墜して金融の用をなさず反古と均しき物の斗り存するに至れるなり彼を想ひ是を想へば氣の毒さ彌増して憂心轉た禁ずる能はざるなり復た本年東京に開設さるる第三回勸業大博覽會の如

京 都 策

きも殖産工業上に大利益を與へ國民に知識を發達し各業の進歩開發を誘導するの器具となるべきと雖も退て考ふる時は又今回開設の大博覽會は地方衰微の狀況を益々増進せしむるに媒助と謂はざるを得ざるなり

京 都 策

又本年の我國未曾有の國會を開設せられ全國の大小政事家の申すも及ばぬ新聞紙卒業の政事家迄も追々と東京に集り博覽會の爲め多數の觀覽者及び出京人實業家の出品する者及び之れが事務員なる人の東京に蝟集して此等の人々の散出するの貨幣は實に其高大なるものにして物品賣買上より生ずるれ其純利益は素より物品總収入額をも擧げて之を消費し去るの事は實際上看察より斷りて其當の失せざるを誓ふものなり此に於てか中央首都の繁盛に引きかへ蝟集者の不生産的消費より來る地方疲弊の恐るべき結果は如何にして救済すべきか地方の金は尽く中央首都へ集合して之れが爲めに地方の金融上に

恐慌を來し一般の不景氣を現出せるは今より余輩の保証する所あり
政府は當路者は大博覽會の擧より及す利益はよく是等地方の不利慘
狀に比敵し得て地方衰微の到らざる策を今より講究すべき事望むも
のなり

京 都 策

實に本年は東京に集合するの二大引力ありて爲めに地方の衰微の狀
況を増進する其所以を列擧するは到底此一小冊に尽すべくもあらざ
れば今爰に詳論せずと雖も地方の財源を涸乾して以て克く國家の富
強を來し得るや否や世人は常に重沓を地方に措かすして以て濫りに
表面上の雜沓を希がわるゝを見大に疑を我輩に起さしむるあり
當業者有志者希くは注意する所あれ將に上京せんとする地方人士亦
深くこゝに着目し徒らに不生産的消費を爲して地方衰微自郷衰弱の
基を作るなからんことを我輩の去る明治十四年に東京に於て第二回
内國勸業博覽會の後ち次回開設の第三回博覽會の京都に於て開設あ

京 都 策

りたきの建議を西村中村高木安本等の諸氏と當時權門に奔走したる
事ありしも既に東京開設に確定し助かし得ざるの實あり爲めに建議
見合せたりしが次回即ち第四回の内國勸業博覽會は是非とも我が京
都に開設あらん事を有志者と共に盡力せんことを
既に復た昨年二月憲法發布式に東京府民は 天皇陛下の聖旨優渥な
る千載の一遇此時なりとし畏くも陛下を上野公園地に奉迎し區々町
々狂奔して或は花車を出し異様な行裝を爲し當時非常の繁雜を極め
たりし然るに其後數月を経て東京の商業上に不景氣を來したり夫れ
は當時に多數の小民が無暗に錢を散らしさるの結果なりき
本年四月は我京都に疏水通水式もありて幸ひ 天皇陛下は名古屋に
海陸軍大演習を舉行あらせられ我が京都に御巡幸遊さる事なれば供
奉の百官有司も入京せらるゝ趣き定めて市の人民は懽喜して之れが
費用に數千圓を出して通水式を祝するならん我輩尙豫考するゝ市民

京 都 策

の之れが爲めに支出するの費用外に又例の干渉觀的を以て山鉾を出たせ御輿も出だせ都踊に練ものに猫も狐も狸も歡こべ噪げと唯さへ不生産的に傾向する人民に對して干渉的を以て外面の繁盛を虚張せしむる等の事なきや我等今より痛心して措かざる所なり 天皇陛下の臨御素より慶賀し奉らざる可らず通水式も祝せざるべからずと雖も通水式の嘉祝ハ水力電氣の功用顯れて京都の工業發達の期を見て之れを祝するも遲きにあらず行幸の慶賀素よりなれども眞正誠意の實力を以て歡迎し奉ることを敬慮にも適ひ樞要は顯官入京を幸ひ土地の民情視察の資ともなるべし徒らよ一時表面的の美を飾り後ちに不景氣を來たす等の事なきや昨年東京にて發布式の後ち不景氣を來したる例を以てするも我等甚だ關心する所なり然れども其當時ハ百花爛漫の時にて他の來京者の爲めには是等の不生産費用を補充する事を得を誠に仕合なり今京都策を講ずるに當り一言哀情を吐露する事

斯くの如し

嗟呼生等が一片の私策を呈して以て京都全市の爲めに京都人士の爲に我が舊好の資産家素封家の爲に深く注意の熱情を感起せられん事を祈るもの豈他あらんや希くは諒するあれ

第 一 篇

京 都 策

前総論に於て我京都實際の情狀を陳述したれば是より一步を進めて我が維持の策を述べん今生等が平生抱懷せる持論に據り左の三項に大別して以て論究せんとす讀者乞ふ仔細に玩味し賜はんことを曰く

名所保存

旅客吸樂

工藝美術

第一章 名所保存

京都策

京都の自然の形勢自ら城をなすとの勅語以來千有余年の帝都にして百般の文物皆此地より發せしものにして就中其所藏に富むものは彼の神社佛閣是なり山紫水明是なり其神社佛閣其山紫水明は實に工藝家の參考品となり染織の模範となり天然一大公園を形ちづくり従つて旅客の吸集となり旅客の吸集は延ひて工藝美術の販路を擴張し以て直接間接を問はず密着の關係を有する者なれば余輩の決して此天然の美形を輕々に觀過する能はず敢て其保存上は要素を審査する所以亦爰に在るあり

名勝保存の已に官の下賜あり又保勝會等の設けありて既に年々幾分の金員を之れが保存の爲めに支出する事にして既に資金も三万餘圓ありて之れより生ぜるの利子千三百圓餘なりと今回太泰廣隆寺へ千五十圓餘とか保資金を與ふ事に決議せしことなれども猶有志家の殊

藤家吸茶也

寫一社寺と

志家と

讀念を

要也



京 都 策

に盡力すべきもれあるの前述によりても明らなり生等は神社崇拝者
 非されども彼の山紫水明神社佛閣の内國人旅客を吸集するに止ま
 らずして海外人をも吸集するの一大効力を有する者あれば府下の繁
 盛を來たす一原因たるべきなり又彼れ東西本願寺等の如きは尤も旅
 客吸集の一大原素にして又富源の一なり依て我が土地の有志家は進
 で本願寺を優待厚遇し旅客吸集策として常に事務員に協議すべき事
 其他學校の如き百般の事業に、同本願寺より毎度寄附金を應出され
居れども生等の所見は之と反對否寧ろ一步を進めて我が有志家の常
に本願寺に協議保資して旅客吸集力を強むるに務められたるなり又
 近來知恩院等の各宗本山にして財政上の事より種々の紛雜あるは誠
 に憂ふべき事にて其本山の財政を失するの管に世人の信仰力を薄く
 するに止まらず參詣の旅客を減少し爲ふ我が京都の賑ひに若干の影
 響を來すべきなれば後來なるべく有名の古刹社寺には務めて紛雜へ

生せざらん事の方法を設け其仲裁を試み以て永く京都の繁盛維持に
 注意せられん事を

第 二 章 旅 客 吸 集

旅客吸集は我が京都の盛衰に影響を及ぼすもの、最も大なるものなれ
 ば其關係を有する事情亦決して鮮小ならず然れ共今其一大要素とし
 て視るべきもの即ち左の四項に分類して以て其方案の必要を略説せ
 ん曰く

鉄道布設

旅舎の改良

道路の修繕

商人の心得

第一節 鐵道布設

鐵道敷設の事に就きては大に意見あるあり抑も鐵道敷設ハ旅客吸
 集案に關して最も必要に且つ重大なる關係を有てるものなれば最も
 遠大なる目的に利用せざるべからず而して余輩夙に希望せる方案を
 呈出するに先づ奈良鐵道は官設ある稻荷停車場に接続するよしなれ
 ば之れを三條大橋際迄如若しくは疏水運河丸太町近傍迄延長し又た
 舞鶴鐵道許可次第に同鐵道の京都停車場を二條離宮の裏手に建設し
 て之を本局となし南は官敷七條停車場に接続し千本通りを北へ回
 て北野神社近傍若しくは其西陣の近傍に一の停車場を設け夫れより
 東漸して南へ遷り奈良鐵道は疏水丸太町遊又三條大橋停車場に接
 續せん事の希望なり而して是等の事業には我が京都の住民の共同一
 致の力を以て贊成を表され市會若しくは府會市部會に於ては年々若
 干は兩鐵道會社へ保資金を附與する事是なり又北陸鐵道の京都に關

京 都 策

京 都 策

係を有すること最も著大にして三越加能の人を吸集するの大方策と
 もあるべければ府下の工商素封家は他の鐵道と同一視するなく特別
 に之が力を尽されん事を希望し止まざるなり少しく他岐に涉る嫌あ
 りれども一言すべき事あり其の他ならず生等は常に旅行好きの癖あり
 て少年の頃より一年の内半ばは殆んど旅行に歳月を費したり是に
 於てり日本内地の過半は既に巡回し尽し今后一二年を其他の地方に
 旅び寢せば全く巡回し終るの見込あるなりサテ我輩昨年奥州地方を
 再遊し宮城山形新潟等を巡遊して大に感じたる事あり夫れは越後
 新潟出羽酒田鶴岡及び羽前山形等に京坂地方の風俗の存する一事
 是れなり斯く日は甚た奇異れ想を起さしむるなきにあらざるも退
 きて熟思廻慮するときは大に味ひあるものよしして決して奇異なるも
 のにあらず何んとなれば海運の便に依りて京坂地方の貨物を運送し
 たるに依るものにて昔日日本形商船は東海ふ良港なき爲に物貨を運



東山
おんせ
いせ見子

北陸兩羽の
風俗未だ腹せする
子名も北陸後
道で急ぐ 政外

京 都 策

送するに北陸兩羽の地方より進んで江戸に至るの大回さへありし其貨物は大阪より馬關を経て宮津敦賀伏木新潟并酒田土崎を経て運漕し同地への酒田より最上川を溯り山形より米澤若くを仙臺等に之を運送したるものなり而して其行商商人の常に江州人の占有せる所なりしも流行及び嗜好の品物は京阪より輸出して商人則ち江州人の手に依りて種々の物貨を送致しありしが故あり依りて昔日馬關を経て物貨は運輸せし土地には京阪地方の風俗を傳播せる事實の誠に尤もの道理と云ふざるを得ず爾後運輸之西洋形帆前船又の汽船の運用起りたりしも多くは神戸横濱間の航海を主としたり之に反して北海の地の汽船の進航少なくなり又敦賀より鉄道敷設して北陸東山の二道を横断し殊に官設の東海鉄道落成により東は一の關より青森に達せんとするに到れり斯る有様あるも是迄京阪地方は風俗嗜好は追々と薄くなり轉じて東京の風俗嗜好に一變せんとするの模様あり

京 都 策

然るに今や起さんとする北陸鉄道は我が京都及び大阪の爲めに是迄の舊得意を再興するの大利益とあればなり是れ實に京阪地方而已の利益にあらずして我國全土の利益なるあり既に我國制中央集權は弊を過ぎて後來國家經濟上の爲め我が輩をして竊かに憂慮に堪へざらしむるあれば今日未だ中央集權の極端に達せざるに先ち所謂我が首府に全身の血液集りて腦充血症を起さるに先ち關東關西の權衡を保たんと欲せば北陸鐵道及び山陰鐵道を起し關西地方の繁盛を復興し關東の商人輩は東京を中心として横濱に外國取引をなし又關西は大坂京都を中心として神戸を以て外國貿易取引所を充て地方的分權の制によりて以て双方互に其利を分有せば我國家自立の基を開き得て吾が子孫長久の安樂を得んこと期して俟つべきなり

復た少しく他岐に渉る如しといへども頃日大坂と京都と互に商業上の競争を爲す如きあり是等れ事實の吾輩の極めて不得策として大



近年の賑々血
隣人隙を覗ふ



京 都 策

に排斥する所なり彼の舞鶴鐵道線路を大坂と京都と競争する如き
 京坂有識の人士の舉として少しく不似合と思ふあり元來京坂は常
 に聯合して神戸港を利用せん事を期せざるべからず又た製造物れ如
 きは常に彼我の利害長短を慮りて手を着けざるべからず吾輩は今日
 迄大坂京都の唇齒輔車の關係を有しながら常に冷然として互に秦越
 の思をあし居るを痛嘆するなり此度大坂京都両知事の發起よて淀川
 改築を謀るは一事は吾輩に於て工事の利害得失は暫らく措き今日ま
 で疎隔せる大坂京都が將來に商業上人心上連絡は大道を開通するに
 良媒たるを信じて疑はざるなり而して北陸鐵道の敷設を京阪兩府に
 向つて著大なる物貨の參散力を添へ且つ多數の旅客を送迎する事を
 れば京阪に取りて最大効能ある利器の鐵道なり

第二節 旅舎之改良

京 都 策

旅客を吸集すると旅舎を改良するにあり吾輩は京都に完全なる「ホテ
 ル」の建築すべき必要を屢々論述せし事ありき今や吾輩の冀望の如く
 舊勸業場跡に大「ホテル」の建築は落成し隨て以來は他にも追々建築の
 必要を感する者あるに至れを爾後の建築者及び營業者に向ひて注意
 と云ふにあらざるも從來の宿屋と唱ふる者に向ひて一言するは無用
 の事にあらざるべし抑も京都の勝區名跡は富み山水は美伽藍の偉な
 るに云ふ迄もなく本邦第一位に居るものもあるも是れと密接の關係を
 有つ旅舎に至りては未だ十分と云ひざる可らず依りて京都に來遊す
 るものゝ山水の美伽藍は偉なるを嘆賞するも全時に完全なる旅舎少
 なきに不便の念を感するならん京都に旅客吸集の目的を達せんと
 するは漸を追ひ旅舎を改築せざる可らず旅行中旅舎の如何の旅客を
 して一種の感情を催さしむる者なり全体京都人は引き込み勝にて旅
 行する人れ少きより自然比較的の實驗に富まず爲めに旅舎の他方に

比して其割合も劣れるを見る爾后の旅舎主人たる者と旅行を爲して
 四方に風に則り俗を見るの用意なかるべからず如何に風景美をれど
 も旅舎の麗末と旅舎の冷遇は旅客の足を留むる能はず彼の日光相州
 江之嶋播州舞子濱等の如きは其地其土の風景に副ふたる相當に旅舎
 を有し是れが爲めに大に多くの旅客を吸集するものゝ如し猶又旅舎
 の爲めは旅客を吸集せし事を引用すれば又東海道田川即ち三雲村と
 石部と水口の間にあつて土山水口間にある大の村と全様なれども
 田川も二三の良き旅舎あるが爲め且其旅舎が他驛の旅舎に比して旅
 客を厚遇せる爲に旅人は足を本驛なる石部水口に留めずして殊に三
 雲村に宿泊する事となれり其結果として全村に線路の都合といふ
 へ關西鐵道の停車場を設置せらるゝあ到りふりと而て原より三雲村
 に古跡若しくは物産のあるる非ざるも旅舎の他驛に比して清潔と
 旅舎の厚遇等總て旅舎に必要なる條件の備付けあるゝ依り終に其利

京 都 策

便是れが原因とあり停車場を設置せらるゝに至り益々其土地の繁盛
 を引き起さんとせり是れ等は凡て生等多年遊歴の實見によりて保証
 する所なり京都に旅舎業者が最も肥臆すべきは食料に注意して其
 の價を低廉にし注文外の品を出す等の事なく充分に旅客を厚遇して
 再遊の念を起さしむるに注意せざるべからず又來客の購買品に口
 錢を取る如き若しくは商人宿に在りては特約商人の外他商に購買す
 る事を許さずして大に旅客の自由を妨ぐる等の弊を一掃せざるべか
 らず從來旅人宿料理屋業者の如きと其の位置一般の人に比して劣
 等な位する様あるは畢竟是等の卑下なる學をなすに原因する者と謂
 ひざるを得ず今后京都旅舎主人たる者此の弊習を脱せざるべから
 ず

京 都 策

小生曩に此の宿論によりて一文を帥したることありき聊ち重複
 の嫌なきにてもあらずと雖も今其一節を抜きて之を示さん

上畧 吾人は京都人の今日迄此点に着目せずして高臥安眠の内に黙過する所以の者は「ホテル」業を以て宿屋の卑事賤業として之に従事せざるや否の知らずと雖も歐米に在てハ決して然らず智識の兼備せる人を稱して「ホテル」主人の如しと云ふ綽名を下す如きは亦以て「ホテル」主人の萬事ハ通曉せる者にあらざれば爲し能はずして之を尊稱するの一事亦以て其の如何を推知すべきなり云々

現に歐米に於ける旅人宿業ハ地位實ニ此の如し我々温泉地の宿業者の如き亦其の氣風なきにしもあらずして縣會村會の議員を兼ね或ハ衆議院議員の候補者として現れ出づるを見る是れ決して奇なるものあらず其土地旅客吸集の爲め旅舎主人に重きを置くものなり實に歐米各國に於ける如く旅人宿業の主人たるものは世態上の觀察に社會上の見聞に政治上の運動に乗入るも宜あり退ひて我々京都市場を通覽して此如實あるや否や我輩旅舎主人の爲めに痛歎に堪へざるなり

京 都 策

我輩の所見にては京都市民の爲めニ直接間接の利益と福祉とを扶與せしものハ旅舎其物與りて力ありとす依て今京都の爲め有功の士人を分類し其等級に従て名譽標彰賞牌を授けんとせば必らずや先づ

一等賞牌(金牌)

俵屋

也阿彌

たらずんば能はず

京都全土の爲め最も與りて力あるものハ是れたゞ旅人宿業者なる哉美術工藝家を除き何人と雖も此旅人宿業に對して一等賞牌を争ふべき効能を與へしものあらず彼の紳士と稱し代議士と唱へ豪商と唱ふるものあるも我が京都名譽賞牌を受くる豈三等賞銅牌の價値すらあらんや

我が京都一般の人士希くと旅舎營業者を卑下視する者からんとを又紳士有志者たるもの是等の營業者を卑遇冷待するなく勉めて保護を

京 都 策

著者より旅人君子
一守少老と掲げ



紳商を志す女子
未だふふで

京 都 策

假し其營業の利便を謀るに猶豫する勿れ

實に旅舎營業者の盛衰は旅客吸榮の力に最大の關係を有し延ひて我が京都一般の利不利に影響を來すものなれを當營業者も亦其本業の粗雑なるなく旅客の待遇に注意し以て世人の注意を呼び起すに怠るなく其待遇に酬うるの賞悟なくんばあるべからず以て相互ひに京都全市の繁盛を圖るに怠るなかれ

尙更に余筆が替て草せし一文を抜き其論意を補はんよ

上略 歐米人の一癖として奇を好み異を求め殊に采風觀光の週遊を以て人生の快樂とするは皆人の知る所なるが世界中消夏として凌冬として遊覽休息として風俗觀察として考古取調として東洋天地に属巨傾意するの今日歐米通信の歐米新聞に且つ歐米人より直接に聞知する所なり而して東洋なる言辭の其の包括する所の範圍極て廣しと雖も竺にあらず清にあらず即ち順候良土の我日本にし

て而して日本中我が京都の名區勝地と神社佛閣と工藝美術は歐米
 に向て東洋の聲名を一少部分の京都より代表して歐米人の口頭に
 膾炙せしむる偉大なる勢力を京都より有するものにして歐米人の日
 本に來遊する者の滞留の地として永く旅装を解き久しく行李を卸
 すの地は東京横濱を以てせず大坂神戸に求めず即ち京都を以て永
 滞長居の地となる所以の者は抑も亦故なきに非らざるなり云々
 實に鐵道の便により内國人の避暑に歳首に避暑に旅行し若しくは少
 壯若學者の轉地療養に好適の「ホテル」を供給せんこと豈決して不利損
 毛のあるあふんや
 唯た爰ふ近頃京都料理屋割烹店の東京大坂に比して余程劣等に位せ
 んとせること是れ誠に我輩の歎息に堪へざる所あり京都の調理法と
 稱するは一種の品位と美術を含むのみならず其料理の巧妙にして其
 風韻を具へたる調理法は日に凋落して益々拙劣に變んせんとす以前

は魚類の乏しきに拘はらず調理巧妙を極め今日ハ魚類の多きが爲め
 拙劣に陥れり元來京都の料理は茶道より脱化したる者にして品位氣
 韻の具はれるのみならず風味と配合其の宜しきを得たるも今日頗み
 る魚類の濫用と粗雑との弊を來し烹粹煎長を破壊したり當業者さる
 もの深く茲に猛省せざるべからず
 京都盛衰上の原因を訂究せんとするに當り我が士民の注意と營業者
 其人の業務上より於ける關係を列叙し以て聊か意見を呈出せらるものな
 り

第三節 道路

道路の險夷は大に旅客吸集の如何に關係を有するものにして現に府
 會にても勝地名區に達する道路ハ地方税にて改繕する事となりたれ
 ば次第に修繕の行き届く事ならんと思意すれども爰に吾輩の希望あ

京 都 策

りろの京都市中にて東の圓山公園地に馬車を通行せしめ南の大佛なる京都博物館より北南禅寺永觀堂迄一線道路を開き東西に迂回するども而して費用は多少地方税より保護を受け隨て沿道人民にして道路の便益を受くる人々の有志者を募り以て之を開通を謀るべし日本公園地ある名を冠する京都にして馬車は兎も角腕車すら通れる能はざる所あるは京都の爲めに惜むべきの至りなり況んや爾後外人の日を追ふて入京するは必然の勢にして旅舎の改良に次て尤も必要なる道路の改繕なり而して其道路の往來に關して一の便否を及すものあり即ち道路の改繕と全時に車夫の取締を嚴にせざるべからず彼の停車場に於ける車夫の如きは不案内なる内外の旅客を奇貨として其注文の買物を爲すにも商店より幾割の口錢を取る如き惡弊あるは既に目撃する所なり此等の弊害は京都に旅客を吸集するに最も障害を與ふるものなれば充分の取締ありたきなり



第四節 商人ノ心得

京都ハ美術工藝ハ土地にして工業地にもあらず又ハ商業の地にも非ずとの議論ハ是迄有志家中の談柄にして例年市部會ひて商業學校の存廢説の議論ある所なり我輩ハ常に工藝發達の論者にて工藝を骨とし工業を肉とし商業を四肢として三者の權衡を保ち我カ京都の繁盛を期せるものなり京都素より工藝地なれども近來疏水工事を起して水力電氣にて工業ハ發達を計るれ事もあり隨つて工業ハ發達にも充分力を盡さるべからず假令工藝工業の希望の如く發達するも商業家の奮ふて商業ハ發達振起を謀らざるべきハ從來何程の農工業工藝の振興あるも商業の之れを提携するの媒を藉らされハ發達せざる事英國又ハ米國等の商業にして農工業に如何なる力を與へたるかを一考せば思ひ半ハ過る者あらん又我カ日本ハ東洋ニ辟在すれども東隣

策 都 京

策 都 京

に米國あり西隣に亞細亞大陸ありて歐洲に航する海運ハ便よく殊に我カ京都の商工藝家ハ是迄内外博覽會の關係より外商と商業の聯絡を爲す事便利なれば商業家の内地を初め世界各地を往來し(無資力無經驗家に洋行を勸むるものに非ず多財老成家を指す)活潑機敏に我カ農工業工藝工業の物産を齎らして内地及び外國に三者の爲め得意の客を搜索し否搜索せざるも來京の内外購客の爲めに充分我カ物産ハ販路を擴め將來に屬望多き工藝工業の盛大を極めしむ事を計るべし若し此等商業家にして怠惰姑息に今日を徒過せば農工業工藝工業の販路を擴る途なく手を空して我輩共々山紫水明の公園地に涸死するの外他なかるべし又横濱神戸等の商業も表面上盛大を極むるも其工業の内部は外人の關涉を受け内地の事業と漸次侵略せられ唯多少心あるの有志家カ姑息の防禦論を爲すに止り一朝内地雜居の隣に到り彼れと對戰するの策略を計畫するの氣象と用意となかるべからず商業家

策 都 京

の任實に重大なる、淺識者の我輩の言を待たずして明かなり
 又商人の心得よ付ては述ふる事甚た多くかゝる小節目中に概論すへ
 きものにあらずして宜しく別章を設けて以て其一斑を陳述すへきも
 のなれども旅客を吸樂するの一要素として或ハ鐵道等運輸の便開鑿
 によりて來る所のものなきにしもあらずされば辨宜の爲め是に掲出し
 以て我か京都に於ける關係を畧叙せん
 又た商人の廉直と愛敬ハ商人か第二の必要なる財産にして亦旅客吸
 樂上あ於ける最要素となるへきは實に單純なる事實と謂ふへきなり
 思ふに我か京都の物産は其需要内外人相半はするあり將來必ず外人
 は需要一層多きを占むるものあるなり然るに言交不通は外人と我か
 京都商人か洋客を對手にあすには必らずや狡猾なる通辨人又は車夫
 の爲めに莫大なる口錢を取られ洋客は割に合はざる高價の物品を
 賣り付けられ洋客は製造元販賣元なる京都にて購買するより却て本

客眼多買の人

商工業を蹂躪



貴色慍恨の士

他の金氣力

を其身

京 都 策

國にて購求するの廉價なるに如かすとの奇談さへあり依りて是れ等の事情を詳悉したる洋客は之を京都に求めずして横濱若しくは神戸の商館また「ホテル」を托して調達せしむる方却て安價なりと云ふ豈に奇觀にあらずや依りて之れが救済の爲め我が京都商人は眞正確實なる價格を歐文にて記載し且つ商標を附け購求者より直ちに注文を得る事緊要あり凡て商家の正直信用を主とするは言ふまでもなき事にして彼の木綿は京都産にあらずして大坂を接近せるの産物なれども木綿仕入を大坂になさずして必らず京都辻商店大忠に於てなすが如きは正直信用の商家に必要なるの例證と云ふべし又た奥州の川俣絹武蔵の秩父飯の根古や絹等は遠く東國より輸入し而して川俣絹の再ひ京都に送り紅染とちし(俗よモミ)と稱す又た秩父根古やの如きも京都に送りて藍染となし而して再び京都より彼等の地に送るの手續を取り居り是等の其れ原質遠く關東にあるも我が京都が其れ色染

京 都 策

と張物に技術に巧妙なるの然らしむるものよして此等の技術が京都の専有權を握るに至れるは固より技術の巧妙に依るものなりと雖も此れ亦た一種天然の力なる彼の水質より起因せしものにて其の原料と良品の古來より吾が京都に向ひて集まり來たるもの實に此の清激ある水あるが爲めなり今や交通は便開け泰西學術的染料及び染法を輸入し理化學の術開け良水も化學の作用あて造り出さるゝの時代となりたれば我が從來の獨占權も追々他の蠶食する所となり染料及び其他の原料も必らず我が京都を以て最良品の集聚する所なりと限る能はず而して夫れ等の最要原素なる京水も何時しか依頼すべからざるに到らん是によりて之を看れば今より工業家の(張物屋下繪屋染屋を指す)方針を一定し資本家に議し本業に恢復を計り土地に生産力を増長するに務めずんばあるべからず然るに今日秩父絹并に根古屋絹の京地を輸入すること至つて少なく重よ加賀絹を輸入する事とな

れり是に於て吾輩と別項に論せる如く北陸鉄道は開通を促し其開通によりて以て他地に之を奪ひ去られざらん事を切に注意する所なり亦た吾輩の西陣の紋繪工及び中形模様の下繪家に付き種々論及すべき事あれども余は畫工の部に至り細かに叙述する所あらん

第三章 美術工藝

我輩は生産力を増加し殖産工業を以て國家の大本とあり我が京都の工藝美術を以て一大富源を發達せんことを希望するものなり徒らに政事上の客氣を逐ふて不生産的消費の増加するを厭くまで憂慮し措かざるものにして我が日本の二十年來長足の進歩を爲したるも退ひて克く前途を顧みるときは未だ殖産興業上の發達に關し十分の進歩を來さんかの安心を措く能はざるもの多々なり抑も我が國の從來專制君主政体にして政事の一方に重きを置き農工

商の事に到りては力をを用ひざるれみなく、輕々看過し去りて從つて是等の事業に従事するもの、如きも大會社等はさて措き亦た自ら輕視するの氣風深く人心に浸染し相當の智能を受くる有志者中にもあり況んや其一步を下りし人々に於ては社會の流弊風潮に席卷せられ政事上の言論に飛び出し議員選舉の競争等に無暗に熱頭し眞正の生産的實業に顧みざる如き様あるは最も痛慮に堪へざるなり元來政治の事たる大と諸列國との關涉上より小の府市全般の行政の事に涉り社會公衆の事に關するものなるより其等に従事するの外表甚だ高尚なるの思幻出するものなるをもて其極終に之れに狂奔するに至る苟も富國の要素は何にもものなるや富國強兵の基礎を鞏固するは政治の重きを置くべきや將に農工商の實業に重きを置くべきやに考察を及されば政治は是れ唯た國家の基本安全にして而して後自ら一定すべく農工商三業の盛衰に従ふて俱に消長浮沈するものたる

の事實を覺悟さるゝなるべし

又先きに山縣内閣は人民各自の實業を奮勵せしめ生産的事業を増加せしむるの方針に付き府縣知事を中央政府より招集して大に諭告され農業上の事に農業觀察を置き自治區には基本財産を備へさしむる如き一として實業的殖産事業の増殖を計らるゝの方針を探らる是に於て各府縣知事も亦從來の政略を一變し専ら殖産的事業に増殖に注意せらるゝならん既し我が北垣明府には東京出立に先ち市會議員并に其他の有志者を招集して自治の談話を開き疏水工事の落成によりて其水力利用の説より美術工藝等と談話を催されぬ復た西陣の實業者機業家を集めて種々の談話もありし由斯かる事實は誠に余輩の欣喜し措かざる所にして感謝の外なきなり然れども熟らゝ考ふるに是れ或は六日の菖蒲十日の菊なるの憾あらざるなきか既し我が國民の農工商の事業を卑視するの氣風を浸染せしめし所以の其依りて

策 都 京

策 都 京

來る所遠く維新以來教育制度の然らしむるまど多きに居ると謂ふも過言にあらざるべし是れ即ち封建制度に於ける士農工商分級の餘弊により士族的に他の三族を訓導し來られたり原より其士族的とて農工商に對しての語にして所謂武士的の氣風養成腕力鍛鍊といふ大に反對するものなるも殖産的若しくは實業上實際に於ける農工商專部の習修あからずして形而上高尚なる學術を授くるを以て教育の方針とせられたるもれい如し嚴正に若し云ひ得べくんば官吏的教育其主なりしなり彼の文學彼の法學等の教則を主に設置され而て富國の街に必要な商業學校農林學校職工學校殊に美術學校工手學校の如き實に彼等に後れて而かも漸く近來二三十年の間に設置され其學則を規定されたるに過ぎず是れ時勢の止むを得ざるに出でしものあるか習慣の爲めに左右せられしものなるか余輩は教育制度の如何なる理由ありて事ここに出でしものなるかを知らずと雖も農工商實業的修

養の教育方針を失せられざるは明治年間の教育史に照らして明らかなり余輩思ふて爰に至れば轉た概嘆に堪へざるなり而して今や政府も農工商の忽よすべからざるを悟り特に實業的殖産上の諭示を發せらるゝに至りたり然りと云へとも殖産興業の發達は豈焉んぞ一朝にして其績を得るものならんや希くは教育制度の方針を改定して以て我が國民をして農工商の事業に其心を向けしめんことに務められんことを我が邦官尊民衆の甚しき習慣あるものなれば我が政府より我が全國の官府自ら進んで農工商殖産上の事業に注意向心すべき習慣を十分に養成せられんこと是れ興業殖産奨励に對する目下の急務なり。

策 都 京

既に維新後諸官省の設置興廢ありしが就中農商務省は明治十四年の新設にして其後殆んど十年間に於て長官の更迭最も多く其機恰も農商務省の必要は農工商其物の爲めにあらずして寧ろ大臣更迭に便利

策 都 京

の爲めに設けらるゝの看ありしなり固より同省の司る區域甚だ廣くして其省務漠然たるものありと雖も國家の成立隆盛に關しては最も重大の關係を有てるものなるは何人も信ずる所あり是を以て我輩所見を回らし殖産興業の發達を希圖し國家の大本を鞏固にせんと欲せば政府自ら農商務省に重きを置き我が總理大臣を以て農商務大臣を兼任せられんことを敢て献言し措かざるなり内閣總理大臣兼農商務大臣たり以て諸省の上位にあらしめよ先來伊藤伯爵は總理大臣を以て宮内大臣を兼りれ爲めに大に宮内省の威嚴を増加したるの事例もあれば宜しく之れが鑒に倣ひ政府先づ之を行ひ以て地方長官に實業奨励を諭示せば恐らくは農商工に重きを措くの氣風を起さしむるに尤も力あるべく併せて我が邦今日の急務たる生産的事業を發達せしむるの一助とも成るべきなり是れ等の政府に向つて勸告し併せて地方有志者と共に實業奨励生産的事業の發達振暢を企圖せんと欲する

の衷情より發せしものたるを記臆せられよ

我輩は是より序を逐ふて工藝美術の項目に移らんとするに先ち一の注意を讀者に請ふざるを得ざるものあり是れ他ならず名所保存と云ひ旅客吸集と云ひ工藝美術と云ひ斯く三大區別を爲して既述し來ると雖も其關係は三者俱に密接せること殆んど鼎足の様を爲し其の一に及せる原因結果と又他の二者の原因結果となり相ひ持して以て我々京都の盛衰に幾多の大因を所有するものあるを忘るべからざることは是也且美術工藝の一章を設け其他の商業工業の如何を記載せざるが如き看ありと雖も余輩豈何にすれど一方に偏して以て其論旨を私しするあらんや讀者或は我輩を目して美術工藝の外は措ひて問ひざるものなりと見倣せるあらん然れ共是甚だ我輩を知らざるの語にして我輩が所見を玩味されざるものと云はざるを得ず我輩が掲出せる工藝美術なる語の凡そ商工業を總稱するの意にして我が京都は他府

京 都 策

京 都 策

縣と異り我が京都に存立せる百般の商工業の其源泉悉く工藝美術にありと云ふも決して誤らなかるべし云ひ換ゆれば我々美術工藝は其他百般商工業の骨格を作為せるもれなり是によりて之を看るに我輩が工藝美術と題するも其論中自ら我が京都に於ける商工業は一般を聯絡し包含するを得るものと信すれば讀者幸に單に美術工藝を論ずるものと見倣さずして商工業一般を渉るべきを知得せられん事を

今本章に關する概論を通述したれば是より進んで左の各項目に分類して以て列叙せんと欲す然れども前三節を本篇に記載し余は次篇に譲ふんと欲す讀者幸に諒焉

第一節 美術家に爵位を與ふる事

第二節 繪畫之獎勵

第三節 美術會

并に

○西陣論○資本家と覺悟及び外國直輸出入之事○工藝家と工業家之區別○疏水工事に關する將來の意見○京都自治牀に就きて卑見等

第一節 美術家に爵位を與ふる事

策 都 京

美術奨励の爲めに美術家に名譽章を附與して以て彼等を優遇するは是れ美術上の奨励あるのみならず我が日本の爲め我が京都の爲め我が商工業の爲め我が貿易上の爲めに尤も緊要なりとす世人の知得ざる如く彼の普佛戦争に於て佛國は莫大の軍費を支出したるのみならず二億フランクの償金を仕拂とざるを得ざるに至れり然れども數年あらずして是れ等の大金を全く支出しざるをみならず大に國力の疲弊を治し其の國運を恢復したりしは是れ實に工藝美

策 都 京

術の發達せし力によりてなるは争ふべからざるの事實なりとす之に反して我が國は東洋に僻在し鎖國の久しに外國との交通を斷絶しつゝありしが爲めに文明機械的の事物は歐米に比して常に彼れに及ばざるも幸ひ美術上の品位高く美術國の名稱宇内に轟き兵力智力金力何れも彼れに及ばざるも唯一美術上工藝上指頭上の製品に於ては彼れ亦我れに一步を輸せるの吾人の幸福なりと云はざるを得ず是に於て我が國人の勉めて其の秀づる所卓絶する所を利用し益々是れが奨励を勉むべきを尤も得策なりとす而して其長所なる美術工藝の根元は實に我が京都にあるものあるを我が政府と茲に見る所ありて帝國博物館より次きて我が京都及び奈良に博物館を設置せられたり是れ等の点より視るも我が京都に美術に豊富なる土地にして美術工藝家其人に乏しからず而して我輩の彼れ等一人々に爵位を附與せられんことを誓願するものなり彼の海防費の献金の如きと其の名愛國の衷情

京 都 策

に富めるものゝ如しと雖も之を美術工藝家の國家に及す利益と勢力を比照せし其の優劣何れぞや余輩茲に左の妄想を繪きて識者に質さんに總体の富豪家紳士を指すに非ざれども或は其多數の授章者中には俄か大盡又狡猾と非理の金を得て當時の身代を作り今哉其財産の一小部分を政府に獻金したるものにして恰も貪慾の老婆か死期に旦那寺へ金を寄附すると同意にしては已に罪滅しの獻金たるに過ぎず夫れ等の人々は身の從何位となり綬章を胸間に燦々めかすれ人々あり又我が國輸出入の不平均を憂慮して殖産興業製糸製茶其他百般將來の順益を謀らん爲め美術工藝品にて海外輸出品を案出し新意匠を發明し以て後來には其物品の販路を廣め國益の一端となるも其創業者若くは其案出者は既に數万円は身代を抛ち當資本を盡し身無一物となり世人の其人を訪つるものなきに至らんとする國益者其功績何れぞや當今の世を見るに或る前者を賞譽して後者は注意と節約



愛
植
末
路

投
標

僥倖者の
得色

策 都 京

の足らざるの罪なり時勢を誤るものなりと爲して管に其人の失敗に歸して止まんとするものゝ如し豈歎すべきの至りならずや前者は利己拜金を目的とし後者の國益を主眼とす名譽と國益を主眼として生存する者を目して拜金者流の欺騙商人の下に埋没せしむるもの抑も亦國家の爲に不利ならずとなすか余輩はかゝる名譽と國益を目的として尽力さるゝ人に向つて金銀を授賜すべしと云ふにあらず希くの一の名譽賞標を授與し以て永く其功勞を表彰せられん事を希望するものなり美術家工藝家并に殖産興業の諸士は名譽標章を與へて以て益々國家の爲めに富強を致すべきに獎勵し一は以て我が國古來より東洋豪傑の氣風を存するが故に益々名聲の顯著を博して以て虚利に汲々たらざるは氣風に富ましむるの手段と爲すべし既に畫工としても古昔は土佐家に御繪所或は法眼法橋等の名譽ありしも今日は商工業の源泉たる美術工藝名家を遇するの道を欠けるの何ぞや以前の本邦

策 都 京

一小範圍に於てするも此の優待あり今日の内地一國に留まらば今日歐米各國と對比して勝を征するの美術工藝に對して之を獎勵するの地歩を與ふるなきは最も甚しき欠点の事と謂ふべし

依りて政府にては速かに我が國に美術工藝家に位爵を授與するの策を講せられん事を當分其運ひに到りがたき場合あらば差當り京都博物館の設置あるにより宜しく之を機關として美術工藝家に名譽を與へ併せて之が獎勵の具と爲されん事を有志者并に當路者に向つて希望勸告する所なり

第二節 繪畫獎勵之事

日本は地球に美術國なり而して京都は日本の工藝美術地なり而して其工藝美術の原素なるもの皆な繪畫より出るものなりと云ふも敢て過言にはあらずるべし彼の色染織物より陶工の器に至るまで繪畫

の用あらざるとなし織物の工職いかに精密なるも圖繪配色の宜しきを得ざれば其織物の色澤を發揮せず従つて世人をして購買心を惹き起さしめず陶器と雖も其格好形状に申分あきも繪圖の色彩優秀ならざれば其價值の一半をも有たしむる能はず其他銅器に漆器に及び染物の一切に於て繪畫の必要を見ざるものあり既に昨年我京都勸業課の調べに係るときは友染下繪又四陣紋繪中形繪及び玩弄物繪等を除き畫工と稱するもの、人數は實に五百四十六人なりき之れを内譯するときは

京 都 策

- 大和繪 十三人
- 雪舟狩野 六人
- 南宗各派 四十四人
- 圓山四條各派 八十五人
- 浮世繪 八人

西洋派 十人

佛畫 四十人

陶器 三百四十人

ありとす猶之れに前段の人々を加ふときは實に千人以上なりとす是其一半を知了するも尙既し我か京都の繪畫に關係あるの大なるを知るべく又我か土地の山水明媚あして名所古跡の充溢し古器物并に遺書藏畫に富めるの事實は自ら繪畫者其物を養成するに最も便利に且つ尤も適當の地にして我が物産の一は繪畫より原泉するの事實は明なりとそ以是漸々繪畫其物を奨励するは尤必要なりとす是れ今更余輩淺識者の論する迄もなく一昨廿一年京都に共進會を開きたる際に井上前農商務大臣の御雇れ獨乙人ワフチル氏及びフエスカ氏と同行せられ其隨行員一人なるワフチル氏の東山知恩院に於ける演説に於て我か京都の富を挽回するには京都の少年子弟をして悉く繪畫を

京 都 策

習熟せいむべしと述さしめし誠に適切な語ふして我輩が腦裏に感
 じて尤も喜悅に堪へざりしなり蓋し此説たる余輩の常に唱道せし所
 ありと雖もワフチル氏の如き世に信用ある人を驅りて此演説をなさ
 しめ我か京都工業家を感起せしめたるを得て余輩衷情非常に満足と
 覺へたりしなり實にワフチル氏の永く我が京都に滞在して以て諸般
 の商工業より我が工藝の發達并に土地の習慣を探知し得爲めに斯く
 京都の商工業の其原泉畫より出る事を看破せしめ斯の如き演説を爲
 さしめたりしなり依て余輩のこゝに同氏の演説を引用して以て京都
 の繪畫に大關係を有するの事實を證示し併せて聊か本章の首に列擧
 せし各宗の營業者々注意を請へんとす抑も我か京都の良工妙手が京
 都の故郷を去らんとせらるゝと何ぞや遠くは川端玉章氏より巨勢小
 石野村文學の兩氏より若くは久保田米隠氏等或は官途に赴き或は政
 官とあり或は權門に身を寄せ或は新聞畫工となりて以て一層の自重

京 都 策

京 都 策

と一層の誠見を缺失せらるゝの行爲あるは何ぞや余輩熟く之を察す
 るに是れ他ならず京都の名譽の位置薄きが爲めに出るものなるを諸
 名手は捨がさ故郷を去らるゝも自己一身の爲めよと換へおたうと
 して東京に移らるゝものと云ふべきあり是等は實に京都の爲めに好
 ましからぬ影響を及すものなれば京都人士の深く此点に慮らざるべ
 からず蓋し之れを回復するの策は唯だ前述の如く名譽の表彰を與ふ
 る策を取りて之れを引き留むるは外策なきものとす今や京都市の自
 治の團練成り京都の日本の美術地ありと定りて京都博物館をも設置
 せらるゝ以上は速に之を擴張して美術家并に繪畫家手藝家を離散せ
 しめずして以て我京都に歸り集まらざるの法を探るゝ注意あらん
 事を又彼の畫學校の如きは日に其盛大を謀り希くは帝室の保護を乞
 ひ宮内省の直轄となし玉のれん事を誓願し同校をして百般に古例舊
 式等并に歴史上の沿革を詳搜して以て其眞狀を畫かしめ一方に於て

畫工其人を移住離散せしめざるは方法を自治團體の中に於て講究せられん事を切に希望して止まざるなり

又今ま京都畫工中文人畫西洋畫を除き其他の名手繪畫家を類別すれば(1)隱遁家(2)博覽會家(3)表具や家(4)下繪家の四つに分かたる其隱遁家なる説は畫と高尚なる獨歩のものとして世に顯れざるも自ら之を信し博覽會等への出品を好まざるものあり又博覽會家の之に反し名譽を求むるに汲々として徒らに審査の照合にのみ注目し反つて畫れ眞情を失するものなきよあらば又表具や家の隱遁家に反して金を得るを是れ目的とし注文の高下に從つて認むものなれば其囑托者の意を迎ひ敢て自家の精神より出たる畫と認めを反つて氣韻生動を失点し京都畫工の名聲を毀ふ如きなきにあらず實に表具屋の下職たるに過ぎざるの豈卑しからずや之に次て第四の下繪家なるものは百般工藝の源泉たるものなれば京都よは必要のものなりと雖も又一の注

京都策

京都策

意を要するものあり即ち下繪家の繪は美に麗なりと雖ども其運筆快活ならず繪畫の一要素として必要ある彼の生氣なるものを缺失し畫家自尊氣風に乏しくして常に工藝商人の指揮に唯々として其目發の妙味を出さざるの我輩の最も嘆する所にして此の下繪家の畫は他の繪畫と異りて多く工藝品となりて海外へ輸出するものなれば美術の眞相を得ざるべからず從つて又學理に背戾する如きあるは尤も忌む所として人物と花艸鳥獸との權格を失する如き若しくは支那流の寸馬豆人を基として歐米人の体格に適せしめんとする如きは是れ實に笑ひの種なれば深く物體れ動靜に着目あらん事必要なり余輩は日本畫工に對して西洋畫風を習用すべしと云ふものにあらず人物の素よか花艸鳥獸みか其眞體の寫生たれ其歴史と其地理の關係を酌量すべきを希望するものなり

以上は目下京都に畫工に就て聊か忘評を試みしものなるか今之を總

括して概言すれば自ら其短所を顧みて其長所に従ひ其長所を以て我が京都の福祉を増進するの覺悟あらまほしきあり若し然らずして各家内、圓き、隱遁家は、博覽會、家表具や、家下繪家等を蔑視して氣格おしどなし、博覽會家は一時の名聲を博するをもて自ら得色を示し、表具や、他家の貧賤を冷笑し、下繪家は他工の實物に適用するあきを批難し、各自個が地位を堅く採りて譲らず、心中陵轢するあるは諸家の爲よ採らざる所にして、京都れ爲めに得策とする能は、又今日は是れ傲然東洋風の蒙際を以て處るべき日にあら、博すべきの名聲の之を博し以て廣く其枝を公にすべきあり然れども亦博覽會家の如く徒らよ外面上の裝見にのみ着目して裏面的真相即ち畫の眞味に力を用ひざる如きの宜しく避くべき要途なり又表具家とても何時迄も古風に泥みて新匠を加へざれば需要者を増加する能はず下繪家も運筆に生氣なくんを工藝品の下繪は他の同業者に求むるものあるに至り終には

其需要を失はん是に於てか我輩の各家に進んで其所見を博くし自己の短所を去つるに猶豫するなく其長所を以て其毛尖より發する光輝を増すに務め以て其の發達を計らん事を我輩が希望豈に徒らならんや繪畫——京都物産の源泉——あるを思へばなり
繪畫家諸氏我輩の盲言を以て一笑あ附せされん事を

第三節 美術協會

抑も美術會の我が京都に大必要なるに今更ら喋々を要せず既に已に美術の京都、京都の美術と云へる世人の通唱によりて人も許し我も許したるの事實によるも明らかなることにて又前數節に列擧せる理由より推するも必要なるべきは明らかなりとす而して我輩は美術會の設立を目して京都の爲めに必要なりと爲すの一事を以て満足せず宜しく其盛大を得て以て京都美術の歴史たらしめ京都美術は羅針盤た

ることありき然れとも斯かる外見の評言の余輩の甚はた採らざる所にして是れ美術協會の爲めに迷惑あるのみならず新聞社員と云へるゝ其人の爲めにも妙ならざる迷惑あるを信するなり何んとなれば其一新聞社員は政事上に關係を有せらるゝも當美術會の如き政治上に全く縁故なき全く關係を保たざる政治上外れ團體に聯合せらるゝも更に益あきものあらざるなり是れ多言を辨せずして明なる事實なれば我輩の左右の構言を去りて寧ろ其言論を美術協會の爲に有益なる注意と方案に轉出せられん事を是等の諸士に向つて希望し堪へざるなり然りしかしながら亦當美術協會員日夜専務實業家の爲めに一言したきことあり抑も本會の如き團體を組織して以て永遠に斯道の發揚と進歩を希圖せらるゝに於ては厭くまで實業者以外の人に其監理を囑托せらるゝ如きことなからんを希望するものなり又實業者以内の人とても時々政治上に啄を容るゝ人若しくは議論がまじき事に手

策 都 京

を出さるゝ人等には決して本會の組織上の關係に言を容れしむるなからんを希望す唯其の實業に心をひそめられ其の職業に専心するゝの外他の政治上等に一切關係せられざる真正の當業者のみ本會の職に與られ其所監の勞を採られんことを注意し措かざるなり政治上に若しくは當業外の社會上の出來事に啄を容れらるゝ人々に其實權を委ぬる如きあるは是れ眞に物議を開くの端緒にして本會設立の主旨に反し到底其將來を完ふする能はざるものなれば謹みて其弊端を除却するに躊躇するなからんことを希望に堪へざるなり本會々員の奮ふて自己が實業に懇勉せるは是れ即ち本會を隆盛あらしむるの基本にして本會の發揚と是れ亦各家實業の繁盛を見るの兆章なり然るに本會會員たる各家と何故にか是れ等の會務に盡力するの高尚なる事務に從事するものゝ如く思意して進んで本會の事務に執掌の勞を採られざると甚だ其意を得ざるものと謂べきなり若し斯の如くにして

策 都 京

止まんか忽ち實業者以外の人に干渉を蒙り遂に他より無用の攻撃を受くるに至るの期して明言すべきあり我輩の所見を以てすれば北垣明府の會長の席にある如きも創業の際止を得ざるに出づるものなりと雖とも次回の政選期に於ての宜しく實業家中より換りて其席に即かれんことを希望するなり實に實業者以外の人をして會務に啄を容れしめ以て他れ物議を惹く如きあるの豈焉くんぞ永久の發達振起を希望するを得んや

京 都 策

尙は終りに臨みて一言の注意を呈せん當美術協會に於ての先日雜誌の發行するも此の雜誌上に於ても有名の繪畫を實寫し若くは古社舊刹の藏物を摸寫し時として圖案の懸賞問題等百般實業上の裨益を圖るに務めらるゝも決して美術上工藝上以外の諸説を記載せらるゝことなく決して政治上に談論に渉る如きなからんを希望するなり
京都策第一篇畢

賣 品 概 目

糸 之 部

- 裁縫用絹糸○同絹糸○同洋繻糸○洋服縫絹糸○同靴縫糸○婦人服飾舶來レース糸
- 機織用絹縞糸○空島糸○洋繻島糸○縫用平糸○同サガラ糸○同本金糸○同銀糸○同紛金糸○同天印金糸○同色々金糸○漁用糸○同海魚釣紛糸○同川漁網糸○同釣糸
- 鳥獵カスミ糸○建築用工器坪糸○廿三用糸○袈裟衣縫糸○吳服反物飾糸○同絨糸
- 夜着蒲團絨糸○御進物用絹糸○箱入紙包○五色梓卷○琴糸○三味線糸○月琴糸○八雲糸○義太夫糸○測量用糸○外科醫手術用糸○其他各種

房 紐 之 部

- 西洋建築室内粧飾○諸官衙○學校○會社銀行貨紳館宅之窓掛飾房○附屬品○テール飾房○椅子飾房○海陸軍人服飾房○附屬品○軍艦汽船室飾房○勳章紐○諸神社飾房○同祭日幕絞紐○神官裝束飾紐○諸寺院飾房紐○同佛具飾房紐○僧侶袈裟衣紐
- 同修多羅紐○同手巾○瓢單紐○小兒守房紐○重掛帛紗房各種○茶室飾房紐○樂器用房○襖間引手房○淨瑠璃見臺房○相模化粧廻房○演劇用紐房○其他房紐類各種

廣 告

打紐之部

○羽織紐平打九打掛紐品々○婦人羽織紐品々○小兒羽織紐品々○時計紐品々○帶々色々○同守紐神名帳入色々○踏打紐絹綿武用打唐打地方色々

真田紐之部

○賞盃箱用萌黃真田紐○諸器具箱用真田紐○帶々用真田絹綿各種○帽子卷各種○諸打紐各種○七寶結細工物各種

莫大小之部

○絹シャツ○同手袋○同腕ハメ○同股引○靴下○絹製半袴○同番掛其他莫大小絹綿毛糸各種○束髮網各種

製糸用結束之部

○器械座操糸スガ結糸○同結束糸○同絹綿上中下品各種

舶來毛糸之部

○編物用毛糸○同スコーチ○附屬品針類各種

廣

告

商標之事

弊店の數代の老舗にして今日迄繁昌に越さたるは皆を四方の御引立と深く鳴謝する所にして猶寶品の信用を厚かつしむる爲め明治十七年九月十日農商務省へ商標登録を出願し十八年七月六日登録証下附を得る事

賞牌賞與之事

明治八年京都博覽會にて銅牌明治十一年京都博覽會にて銀牌明治十四年東京第二回内國勸業博覽會有功賞牌和蘭陀安特提府萬國博覽會賞狀米國ニウナリヤンス萬國博覽會銀牌(真田)明治十八年東京五品共進會賞杯(敷物)明治二十二年佛國大博覽會にて第壹等金牌を領収す

以上如斯年々賞牌の進歩を得て終に昨年佛國大博覽會に於て高等の賞牌を受領するは本店の名譽とる所にして又日本國中糸物營業者にして如斯賞牌を得たるものハ本店の外一人もなき事

出店之事

本年東京内國勸業博覽會に就き上野摺鉢山の麓に賣店を設け京都御苑内美術博覽會場にも賣店を設け置たり本店と同様御愛顧被下へ事

意匠登録之事

廣

告

本店の製品には意匠登録を得へきもの多く既に昨年来數種の登録出願致置候不日特許相成候上へ廣く販賣致し可申又今般勅令第四十四號を以內國勸業博覽會へ出品せしものは意匠登録出願特許無料の恩命有之に付今回出品の中には意匠の特許を得へきもの數多有之候に付追々其手續きに及び可申に付新規考案意匠の物品は本店の長所たるへき事

外國直輸出之事

本店製品にして外國に輸出を爲すに見込あるへき品々數多有之に付種々の見本を製し置き候故に苟も愛國の忠情と殖産に熱心せらるゝ方へ御來訪あるへき事

告 廣



京都市四條柳馬場東北角

兒島商店

明治二十三年四月十日印刷

明治二十三年四月廿五日出版

04

版權登錄

版權所有

著者兼發行人

京都市平民

兒島定七

京都市下京區四條通柳馬場東
入立賣東町三番戶

印刷者

京都市平民

松本貞藏

京都市下京區室町通佛光寺下
山王町卅三番戶

發賣所

京都市御幸町五條上ル

吉田博聲堂

本店の製品には意匠登録を得べきもの多く既に昨年来敗種に登録出願致置候不日特許相成候上へ廣く販賣致し可申又今般勅令第四十四號を以內國勸業博覽會へ出品せしものは意匠登録出願特許無料の恩命有之に付今回出品の中には意匠の特許を得べきもの數多有之候に付追々其手續きに及び可申に付新規考案意匠の物品は本店の長所たるべき事

外國直輸出之事

本店製品にして外國に輸出を爲すに見込あるべき品々數多有之に付種々の見本を製し置き候故に苟も愛國の忠情と殖産に熱心せらるゝ方の御來訪あるべき事

告 廣



京都市四條柳馬場東北角

兒島商店

明治二十三年四月十日印刷

明治二十三年四月廿五日出版

09

著者兼發行人

京都府平民

兒島定七

京都市下京區四條通柳馬場東
入立賣東町三番戶

印刷者

京都府平民

松本貞藏

京都市下京區室町通佛光寺下
山王町卅三番戶

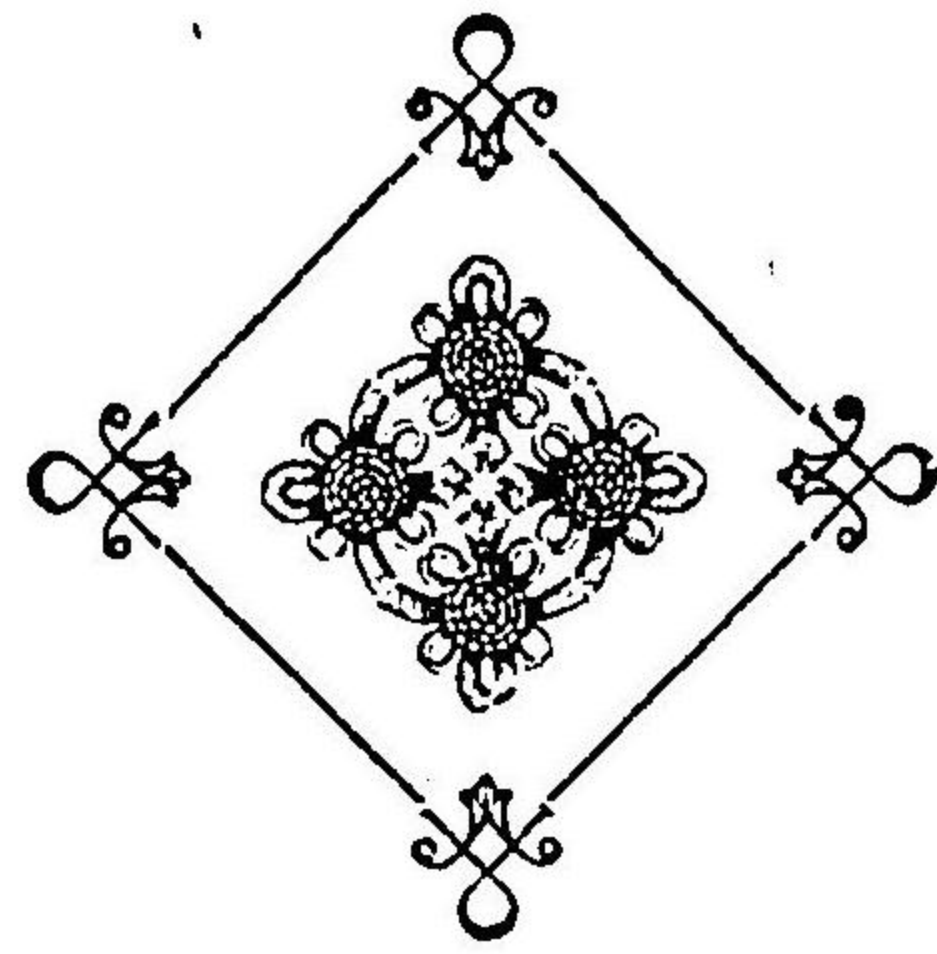
版權所有

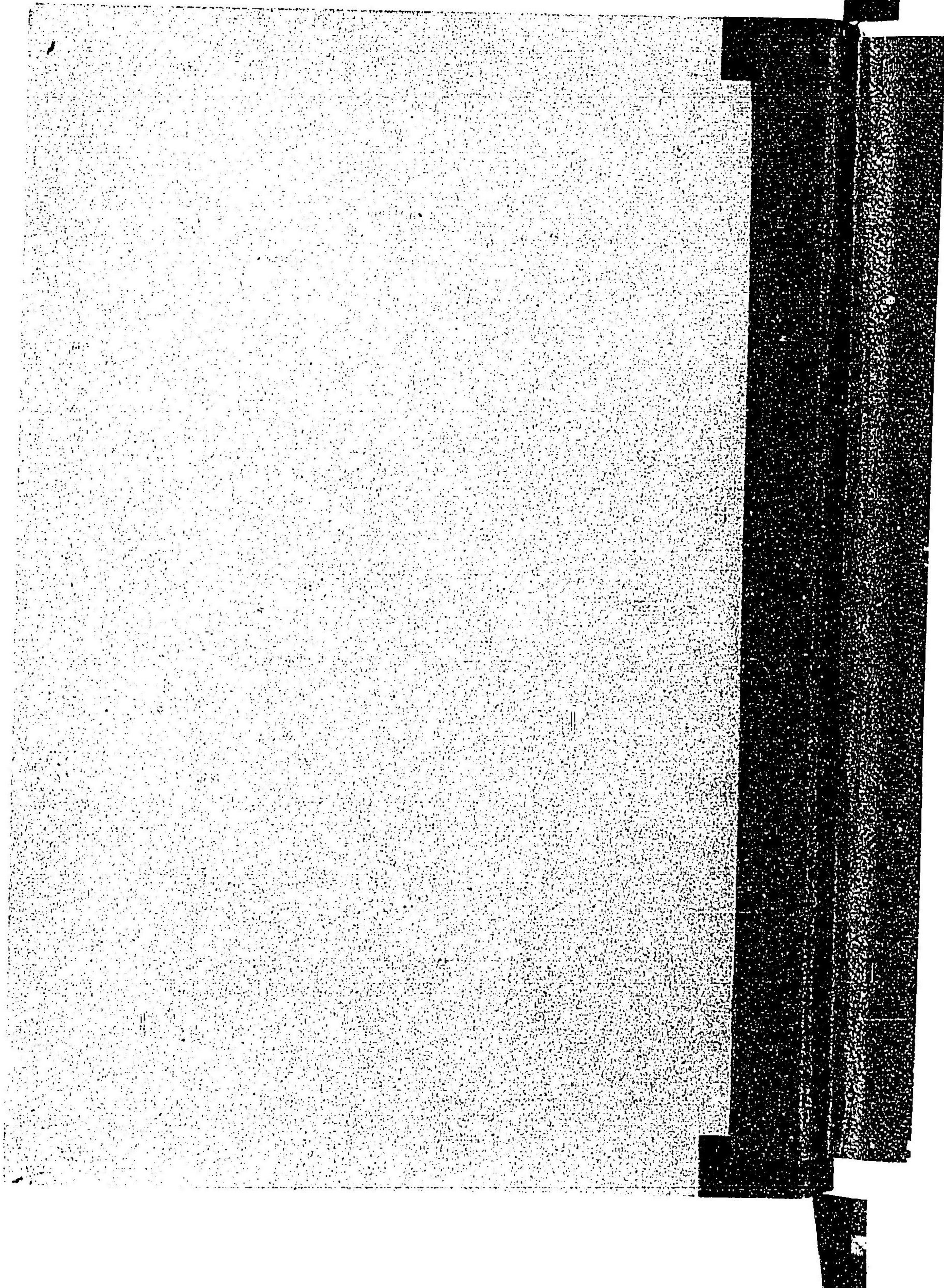
發賣所

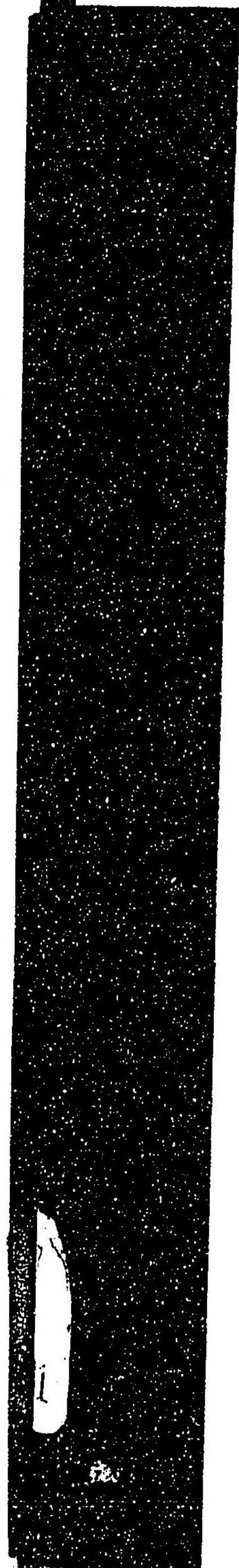
京都市御幸町五條上ル

吉田博聲堂

Ex 609







1

52